

英国地方自治体協議会 年次総会に参加

ロンドン事務所

はじめに

イングランド・ウェールズの地方自治体及びその関係機関の全国組織「英国地方自治体協議会」(日本の地方六団体をひとまとめにしたような組織)は、例年、初夏に年次総会を開催しています。2011 年は 6 月下旬、英国中西部の都市バーミンガムで 3 日間に渡り開催され、クリアロンドン事務所も日本の自治体及び事務所の PR やネットワーキングを目的に参加しました。総会は「会議セッション」と「各地方自治体及び関係団体によるブース展示」に大別され、当事務所からは調査班の職員が会議に出席して情報収集を行う一方で、私を含め他スタッフは展示会場で当事務所ブースを運営しました。

この総会の出席者は主に各自治体の議員ですが、これに加えて、事務方トップの事務総長や部長クラスの職員なども合わせて 1,500 人ほどが参加しました。議員は所属政党の会議に参加したり、「新連立政権発足から 1 年、地方自治体にとってどのような意味があったのか」「地方自治体の挑戦」といった全体セッション、「NHS (国民医療制度) 改革について」「高齢化社会への対応」といったワークショップなどに出席する一方、会議の合間のティータイムなどには各展示ブースを見て回る流れになっていました。

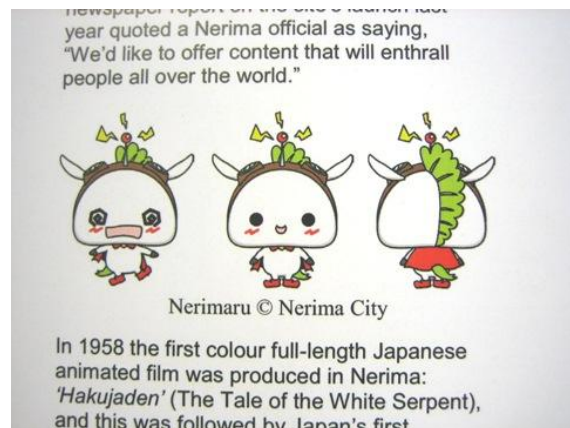
自治体のケーススタディを紹介

さて、クリアロンドンの今年の展示物は、一昨年来の試みとして、英国自治体に関心を持ってもらえそうな日本の自治体施策の事例(ケーススタディ)を紹介したものです。下記 5 つのテーマを用意しました。

- ①介護保険制度の説明及び自治体での高齢化施策の実施状況 (群馬県、静岡県)
- ②コミュニティバスの運営: 生活バスよっかいち (三重県四日市市)
- ③災害からの復興(住宅再建): 阪神大震災の経験から (兵庫県神戸市)
- ④シティプロモーション: 地域産品(甲州ワイン)を活用した地域情報発信 (山梨県)
- ⑤シティプロモーション: ポップカルチャーを活用した地域情報発信 (東京都練馬区ほか)



ケーススタディ



ケーススタディ⑤より ねり丸©練馬区



甲州ワインの展示

ケーススタディ④の山梨県は、競争の厳しい欧州ワイン市場へ参入するためにはまずはロンドンで評価を得ることが肝要と戦略を立て、過去2年、ロンドン市内で甲州ワインのプロモーションを実施しました。昨年度のワインテイastingイベントの様子や、欧州連合（EU）輸出プロジェクトを進める県内ワイナリーの組織、さらに、日本が本気でワイン生産に取り組んでいることなどを説明したこのケーススタディは、今回、一番の人気でした。

なお、期間中に5本の甲州ワインを展示しました。本来はワインをふるまって来場者に味を確かめていただきたいところでしたが、それではワイン好き

の英国人のこと、何本あっても足りず、広報効果も多くは望めません。しかも、ワインを開けて来場者に提供すると、主催者に対する手数料の支払いも発生します。そこで、抽選のうえ5名にプレゼントする方法をとり、希望者には名刺を置いていただくことにしました。これは同時に、当事務所で発行している、英国自治体関係者等に向けたメールマガジンへの購読申し込みも兼ねていたため、購読者数の増加にも寄与しました。

クレアロンドンのブースに来場された方は大きく分けて3種類。まずは既に当事務所の事業にかねてより参加・協力くださっている、いわば「友人」、次に元JET参加者や、家族・友人・知人が日本に住んでいる（あるいは住んでいた）、日本に旅行したことがあるといった「知日派」。最後は、これまで全く当事務所や日本への関わりのなかった方。このカテゴリーの訪問者からは、まず「なぜ日本のブースがここにあるのか?」「どのような仕事をしているのか?」といった質問が開ロ一番にあり、これらの方々に対する事務所PRの更なる必要性を感じました。



ブースでの対応

英国政府も日本の高齢化施策に関心

今回の会議には史上初めて、現職の首相であるキャメロン首相が参加したことに加えて、クレグ副首相など他の中央政府関係者も顔を出し、現在の連立政権が標榜する「地方分権」にかかる意気込みが伺われました。そして、最終日にはアンドリュー・ランズリー保健相が当事務所ブースを訪問。介護保険制度のケーススタディの説明を聞き、資料を持ち帰ってくれました。高齢化で一步先を行く日本の状況に、英国の政府・自治体も関心を寄せています。

(赤池所長補佐 静岡県派遣)